

## 第7回ワーキングレベル会合が開催されました

インパクト志向金融宣言の第7回ワーキングレベル会合が2023年7月27日(木)9:30~11:30に、対面・オンライン形式にて開催されました。当日は署名機関、国内の賛同機関から約80名が参加しました。

第7回ワーキングレベル会合では、新規参加機関の紹介、中期計画・運営体制変更の議論・決議、署名協力機関についての議論・決議、今後の運営についての議論、分科会活動紹介、今後の活動についての報告を行いました。



### 1. 新規参加機関の紹介

前回のワーキングレベル会合以降、2023年5月~7月に新たに署名機関に加わった6機関にご挨拶頂きました。

#### 【新規署名機関】

(5月1日付) Spiral Capital 株式会社、三井物産オルタナティブインベストメンツ株式会社

(6月1日付) ファルス株式会社、株式会社大和証券グループ

(7月1日付) 株式会社シグマクシス・インベストメント、一般財団法人 KIBOW(賛同機関からの変更)

### 2. 中期計画案・運営体制の説明・決議

前回ワーキングレベル会合でも議論した「中期計画・運営体制」について、WL 会合後のアンケート結果や運営委員会での議論を経て最終化した案(資料 P5~11)を、事務局から説明しました。本案について、参加者で審議し、可決しました。

### 3. 「署名協力機関」新設についての説明・決議

前回ワーキングレベル会合で議論した賛同機関の整理について、既存の賛同機関とは別に「署名協力機関」を追加する案(資料 P12~13)について、事務局から説明しました。本案について、参加者で審議し、可決しました。

#### 4. 今後の運営についての議論

議論に先立ち、まずは運営委員長の金井氏が、自走化に関する論点を説明しました。選択肢としては①運営経費をメンバーが負担して現状の事務局への運営委託を維持する、②署名金融機関の共同運営体制に移行する(運営費はメンバーから徴収したとしても最低限に抑える)、③活動を終了する、の3つとなりますが、署名機関は基本的に活動の継続を支持しているため③の選択肢は考えにくく、①か②、もしくはその中間で検討していく必要があること、最大の論点が運営経費の確保であることを伝えました。また、自走化プロジェクトチームのメンバーを募集し、慎重な議論を進めていく必要があること、(社内での予算確保の観点から)2024年の7月の総会までに決定する必要があること等を説明しました。

続いて、運営委員会の共同座長の松原氏(当日ご欠席)からのメッセージが伝えられました。本イニシアティブは世界の潮流とも整合しており意義深いものでありイニシアティブを続けていきたいという思い、また、各署名機関が社内で費用対効果の議論を進めていくことになると思うが、このイニシアティブを今後も継続・進化させていくには、署名機関の協力が必要であるとのメッセージが伝えられました。

また、事務局より、社会変革推進財団(SIIF)による事務局経費負担が2025年3月末で終了すること、その後も本宣言が活動を継続するのであれば、運営経費確保・自走化(会費制導入)の議論が必要であること、費用を集めるのであれば、適切なガバナンス(意思決定メカニズム、監査等)の導入が必要であることについて説明を行いました。また、自走化とガバナンス整備のタイムラインとロードマップ、事務局経費の現状、他のイニシアティブにおける会費制度の動向についても説明しました。

その後の議論では、以下のようなコメントが挙がりました。

##### 【意見】

- ✓ 会費が発生するとなると、社内でも「このプラットフォームに参加し続ける意義はあるのか」という議論になる。他の署名機関の方から、このプラットフォームに参画したことによるメリット、例えば事業にプラスに働いた事例や、分科会でのインプットを社内の実務やインパクト志向経営にフィードバックした事例等を聞きたい。メリットが明らかになれば、会費が発生しても負担感が無いのではないかと思う。
- ✓ 本プラットフォームに参加した各社の想いはそれぞれ異なると思うが、宣言に立ち戻ると、インパクト志向の投融資を実践して経営目標にも入れて推進していくという事は共通しているはず。活動が、各社でのインパクト志向投融資の実践に繋がっていくのであれば、お金を払うことに負担感はない。各社での実践を共有しあいながら、国内でインパクト投資を広めていけると良い。インパクト志向金融宣言を通して情報発信していけるのは、プラスの点だと思う。
- ✓ 金融業界はアウトカムを考えて行動せねばならずインパクト志向という考え方は重要になってきている。インパクト志向金融は、経済を支える環境・社会の基盤をつくることにつながり、結果的に投資家の利益や株主の利益になっていくという考え方であり、PRIでもそれが認識され始めている。社会基盤を支える役割を自分たちで担い、そうした活動が本イニシアティブで実現できれば、本プラットフォームのメンバーであるということがレピュテーションの向上に繋がりと、参加することのメリットが生まれるのではないか。メリットを一緒に作っていくのが、共益ではないかと思う。

- ✓ 参加して一番感じているメリットは、分科会の活動で、志向錯誤している方の話を聞いたり、横のネットワークが出来たりする点。
- ✓ 地域金融分科会で共同座長をしている立場から感じるメリットとして、ポジティブインパクトファイナンスの三層構造モデル(ウェディングケーキモデル)を世の中に発表することができたことが挙げられる。メンバーから意見を頂いて、地域 PIF のモデルとして発表し、環境省の ESG 地域金融促進事業に採用された。一地銀では、モデルを作っても世の中に広めるには限界があるが、分科会やインパクト志向金融宣言で公表していくことで重み加わる。基準づくりなどを一緒に行うメンバーがいるというのは大きなメリット。
- ✓ インパクト志向金融宣言に参加したことで、社内でのインパクト投資への関心度が上がったと考えている。分科会に参加することにより、他社とのリレーションシップが生まれ、同じ悩みを共有できたのはメリット。実際にどう取り組んだらよいか分からないという VC/PE にとっては、レベル感を共有しながら進んでいく場が提供されており居心地が良い。会費の支払いについては、会社に対してどう説明していくかにかかっている。
- ✓ インパクト投資の世界はまだ発展期であり、様々なプレイヤーが様々な思いで様々な動きをしており、マーケットの全体像が分かりにくいのが現状。このプラットフォームに参加することで、インパクト投資に関する世の中の動きがわかるようになった。参加機関に個別にコンタクトして、より深いお話を伺うことを通じて、投資の機会にもつながり、視野が広がった。また、海外の状況がリアルタイムに連携されるので大変勉強になる。金額の話はデリケートであり、全部会費でまかなうのか、あるいは署名機関の有志が寄付的な協賛費を拠出するのか等があり得る。活動の意義について議論するいい機会。
- ✓ 設立から数年で従業員も少なく、インパクト投資について体系的に見せることができていなかったが、他の署名機関の実例等を知ることにより、上手く説明できるようになったというのが大きなメリット。自走化に当たって、費用対効果の話があったが、中計を実践するにあたって、インパクト投資のプレゼンスが高まり浸透していくことが重要であり、それを踏まえてコスト感が出てくると思う。活動をより充実させるとコスト負担も多くなるかもしれない。それも踏まえて議論出来れば良い。
- ✓ 本イニシアティブは、インパクト投資を日本の中で広めていきたいという強い思いや使命感のもと立ち上がったもの。そうした流れをみんなで作って行こうという思いで参画している機関が多いと思う。現場の皆さんにとっては、横のつながりで得られるものが多かったと思うが、会費となった瞬間に、会社として何が得られるのかという話になる。これまでは事務局が、「想い」と限界の費用感でやってきたと思うが、このままだとより攻めた活動が出来ないのではないかと。現状の費用感をキープするとなると、相当自主的に活動する必要がある、むしろ活動費ももっとかけてしっかり投資をするというつもりでやらないと、会社の中で説明できるほどのアウトプットを出すのは限界があるのではないかと。会費で全部集めるのは難しいと考えられ、政府からの助成金を引っ張ってくる、寄付をしてもらおう等もあり得る。署名機関が減ると負担が大きくなるのでバッファが必要であり、上手く設計する必要がある。攻めるという方向に話を持って行っても良いかなと思う。

- ✓ お金が絡むと、使い道を含めて運営の透明性が求められると思う。一般社団法人化してしまうのはどうか。攻めた活動をやろうとすると、一方で、会員の負担を減らすと、収益活動をやるのもあり。認定制度をつかって収益を得る等の方法もあり得る。
- ✓ メリットとして思い当たるのは、1点目は PRI や金融庁の動きとの整合性。PRI も最近インパクトと言っていて、PRI は、インパクトの実現のためには共同エンゲージメントを多面的に行ったり政策に働きかけたりする必要があると言っており、金融庁も基本的指針を作ろうとしているなど、世の中の動きにしっかりついていけないといけない状況であるが、いずれも実務で何をすれば良いかは言ってくれないので、実務の知見を国内のみならず海外スピーカー等から得られるのはメリット。2点目はレピュテーション。金融庁も ESG ウォッシュについて言及しており、海外でもウォッシュに関する議論が広がっている。個社でレピュテーションを構築するのにいくらかかるのか、と考えると、コスト効率的には本プラットフォームに参加したほうが良いのではないか。
- ✓ 海外の情報にアクセスできることをメリットに感じている。一方で、署名したばかりの機関だと、先に参加して活動に取り組んでいる人をキャッチアップしながら、情報を徐々に得ていくことになると思う。今後も新規加入機関が増えていくと思うので、レベル感を設定して、署名のレベルや金額を変えてみる検討も必要かと思う。
- ✓ 署名したメリットとして感じていることは、インパクト投資を実践するにあたって、他の投資家と一緒に悩みの相談・共有ができたという点。インパクト投資をめぐる国内外の動向や様々なフレームワーク・手法等を学んでいるが、重要になるのが、自社としていかに消化して体現していくのかという点。本プラットフォームの場としての価値は、各社がどう消化して体現・発信していくかについて、それぞれのやり方をさらに共有しあえるという点。
- ✓ ボンドの市場では、Climate Bonds Initiative (CBI) 等で、マーケットの人が参加しながら、商品の基準を作っていくという動きがあり、YouTube による情報発信など広報活動に力を入れている。本イニシアティブでは、費用のベースを維持していくのか、拡大・発展させていくのか、さらに、参加メンバーであることのステータスが認められるようになることを目指すのかといった議論となる。トップのコミットメントも含めて広報活動が非常に重要であるため、本イニシアティブでも情報発信をさらに充実させていく必要があると思う。金融庁で作っている指針は、全てを網羅しているが特色がなく実務的ではないので、実務に落とし込んでいくところを担うのが本イニシアティブなのではないか。このイニシアティブに参加している機関がインパクトファイナンスを行っているのであれば、マーケットでも認められていくであろうというのを目指して、拡大・発展を考えても良いのではないかと思う。
- ✓ 参加のメリットについて皆さんから意見を募ってシェアしてはどうか。現状の予算規模で足りるのかというのは重要な視点。やるならば政府から支援を募るとか、志を同じくするスポンサーを募るとか、資金調達手段の多様化というのもひとつの手。
- ✓ 個社ではできないこととして、イニシアティブとしての発信がある。プレスリリースとか記者会見は、何らかのイベントや取組みがあるときしかできないが、定期的にメディア説明会を行うのも効果的だと思う。

業界や社会をつくる、世論をつくる時に、メディアの力を使うのは重要だが、記者の皆さんもまだ勉強中なので、記者勉強会など、個社ではできないことをイニシアティブとしてやっていくことも良いと思う。

## 5. 分科会/企画チーム活動報告

各分科会の座長・副座長より活動状況を報告して頂きました。

### 【地域金融分科会】

- ✓ 4月以降、ESG地域金融促進事業での静岡銀行の取組み紹介、「インパクト投資等に関する検討会」での議論のシェアのほか、SIIFメンバーが参加してポジティブインパクトファイナンスの調査を通じた共通KPIの抽出を実施する予定であり、これから議論していく予定。

### 【ソーシャル指標分科会】

- ✓ 国内外の色々な指標や考え方の中から、自分たちが見ていくべきところにポイントを絞り、指標のカタログ化に向けた議論をしている。企業との対話における目利き力の向上や能力向上、ファイナンスの精度向上ということを、議論していきたいと考えている。今後、より強化して活動していく予定。

### 【VC分科会】

- ✓ 参加している各VCの実務レベルの向上のためのピアラーニングや知識インプットを実施してきている。5月～6月は、通常のVCからインパクト投資へのトランジションを行っている「by Founders」の事例紹介と議論を実施し、7月には、海外連携企画チームと共同で、インパクト投資を行うVCのネットワークである「Impact VC」が作成した「Impact VC Playbook」について、Big Society CapitalのDirectorをお招きしたセッションを実施する予定。

### 【AO/AM分科会】

- ✓ インパクト志向金融宣言の協力のもと、科学と金融による未来創造イニシアティブのアニュアルカンファレンスを実施。金融庁の高田氏の基調講演や、Impact Investment in Asiaというテーマでのセッション、ディープテック投資に関するセッションで、インパクト投資に関する議論を実施した。
- ✓ 分科会の今後の予定として、T. Rowe Price社のご協力で、隔月の第3水曜日に分科会を開催し、インパクト投資のインベストメントチェーンの発展について様々な角度から議論していく予定。また、いくつかの企業年金基金へのアプローチを実施し、肥後銀行の年金基金に本イニシアティブに参加して頂けることになった。

### 【IMM企画チーム】

- ✓ 分科会から、横串機能としての企画チームに移行中であり、事務局の業務に参加しながら、IMMとしてどう展開していくかを考えている段階。具体的には、海外からの知見流入を今後も継続し、海外連携との協働でのセミナーの開催を実施。また、昨年分科会として活動してきた内容の延長線として、IMMIについて学ぶだけではなくいかに体得していくかといった点について、個別性を活かしてピアラーニング形式で進めていくことを検討中。

### 【海外連携企画チーム】

- ✓ 4月以降、主にIMM企画チームやVC分科会との連携でイベントを実施してきている。4月にはOPIMのダイアン氏をゲストに招き、イベントを開催した。6月にはブルーマークをお呼びしてレポートや検証サービスについてのセミナーや、欧州のArticle9に準拠するインパクトファンドを招いた勉強会を

開催した。7月には、Big Society CapitalのDirectorをお招きして「Impact VC Playbook」についての強会を実施予定。

- ✓ 9月以降も、GIINのListed Equity Working Groupを招いた勉強会や、その他の勉強会も企画中。ご要望やネタがあれば、ぜひご提案頂きたい。
- ✓ 国際会議系はPRI in Personのサイドイベント開催を検討中。GIINのInvestor Forumは、スポンサーシップセッションを開催するには至らなかったが、複数の署名機関が参加する予定であるため、個別のミーティングを実施できないか調整中。

#### 【定義企画チーム】

- ✓ プロGRESSレポートの作成についてアンケートを実施し、説明会を開催した。昨年のレベル分けは変更しないが、ガイダンスを充実させる予定。ガイダンスを作るにあたり、融資業務に携わる機関の方を集めて、意見交換会を開催予定。

### 6. 今後の予定・事務局連絡

- ✓ 金融庁からの依頼で、8月8日に「インパクト投資に関する勉強会」と「インパクト志向金融宣言」の共催で、「インパクト投資に関する基本的指針(案)」に関する説明会・意見交換会を実施予定。
- ✓ 金融機関のトップによる発信を強化していくために、Executive Leadership Teamを試行的に開始。第1弾として、11月上旬に三井住友信託銀行、日本生命、大和証券による座談会を開催予定。活動全体の宣伝にもなることを期待している。

以上

- ✓ 資料: 第7回ワーキングレベル会合資料(別添)